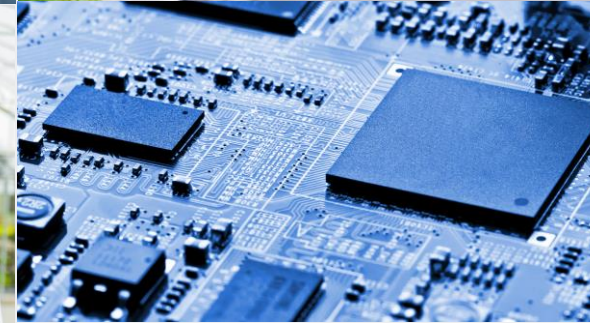




SMBC日興証券 個人投資家向けIRセミナーご参加のみなさまへ

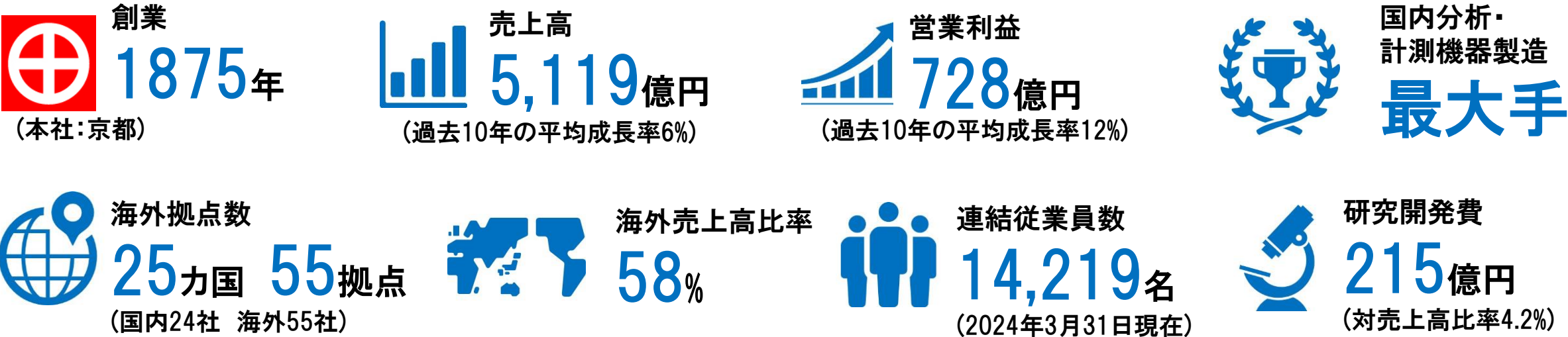
株式会社島津製作所の成長戦略(東証プライム市場：証券コード7701)

コーポレート・コミュニケーション部IRグループ | 2024年9月19日

01 会社概要

島津製作所の概要

社 是 : 科学技術で社会に貢献する
経営理念 : 「人と地球の健康」への願いを実現する
島津グループサステナビリティ憲章 : 地球・社会・人との調和を図りながら、“事業を通じた社会課題の解決”と“社会の一員としての責任ある活動”の両輪で企業活動を行い、明るい未来を創造します



※2023年度現在

島津の歴史

文明開化

- ▶ 海外の近代科学の導入
- ▶ 近代的な生活様式への変化

1882

理化学器械の普及・発展

最先端の教育器械を提供

1882年発行の商品カタログ「理化学器械目録表」には110点もの物理器械などが掲載されています。



1909

医療機器の発展・普及

医療用X線装置を完成

国産最初の医療用X線装置を完成。その2年後には、交流電源を用いた大型医療用X線装置を製造し、大津日赤病院へ納入するなど、日本の医療用X線装置の黎明期をリードしました。



日本初

戦後からの復興

- ▶ 医療基盤の整備と量的拡充
- ▶ 石油・化学産業の発展

1961

放射線の被ばく低減

遠隔操作式X線TV装置を開発

別室での操作により、医師や放射線技師の被ばくを低減しました。



世界初

1956

石油精製業の活性化

ガスクロマトグラフを開発

日本初のガスクロマトグラフを完成。翌年には商品化に成功し、先進的な製品として国内の石油会社に納品されました。同装置は日本化学会にも出品されて注目を集め、勃興期にあった日本の石油化学産業の発展に貢献しました。



日本初

1967

自動車の安全性向上

疲労試験機1号機を製造自動車メーカーに納入

自動車メーカーの要望に応じて開発した走行シミュレーター。走行データを早送りで再生する加速試験も可能で、耐久性向上試験の効率化に貢献しました。



高度経済成長

- ▶ 自動車産業の発展
- ▶ 医療保険制度の充実による医薬品産業の発展

1978

医薬品の安全性・有効性

モジュラー構造の液体クロマトグラフを完成

当時の日本市場にはなかった新しいポンプ方式を採用することで、分析精度や操作性が飛躍的に向上。モジュラー構造を採用することによって多様な要求に対応できるようになりました。医薬品の安全性・有効性の確保を求める製薬産業で本格的な研究開発活動に貢献しました。

日本初



2002

田中耕一 ノーベル化学賞受賞

開発したソフトレーザー脱離イオン化法は、タンパク質などの質量の大きな生体高分子を壊すことなくイオン化し、精密に質量を分析できる手法として、病気の早期発見や新薬開発などに活用されています。

2010

臨床検査医学の進展

国産初ハイエンドの液体クロマトグラフ質量分析装置を開発

高速液体クロマトグラフ質量分析装置のリーディングカンパニーとして、新生児マススクリーニングや血中の薬物動態モニタリングなど臨床分野での活用を拡大しています。



日本初

QOLの向上

- ▶ 健康寿命を延ばす科学技術の振興

2020

COVID-19の感染拡大

全自動リアルタイムPCR検査装置および新型コロナウイルス検出試薬キットを開発

検体の前処理から測定、解析までをシームレスで自動化し、PCR検査の迅速なワークフローを実現しました。



2021

乳がん診療・認知症研究を支える

頭部と乳房の検査に特化したTOF-PET装置を開発

乳房を挟まない痛みが少ない検査装置で、乳がん診療に寄与します。加えて、脳の検査が行え、認知症研究に貢献します。



世界初

2023

食と健康のイノベーション創出

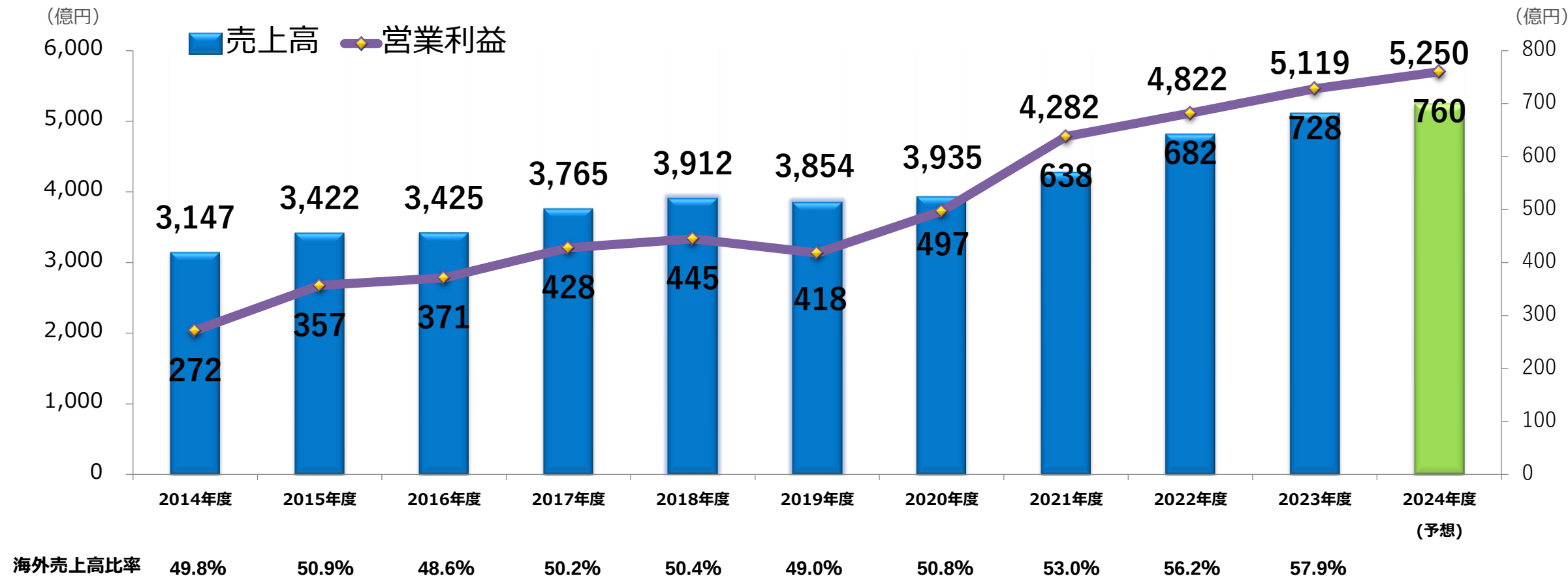
業界最小クラスの高圧液クロマトグラフ質量分析システムを開発

高い感度・耐久性・保守性で食品中の機能性成分や残留農薬の分析から、医薬・化学・環境分析の幅広い分野をカバーします。



売上高・営業利益推移

- ・5期連続で過去最高の売上高、営業利益の更新を目指す
- ・過去10年の平均成長率 売上高：6% / 営業利益：12%
- ・海外売上高比率：2014年度 49.8%→2023年度 57.9%



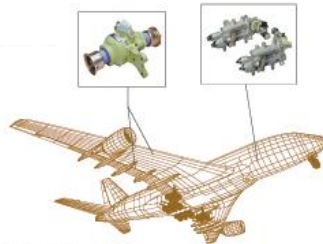
事業セグメント

航空機器事業

6%

295億円

最先端の搭載機器を提供し、「安全・快適、負荷軽減」に貢献



フライトコントロールシステム

フライトコントロールシステム

その他
1%

産業機器事業

13%

654億円

高性能なキーコンポーネントを提供し、最先端のものづくりの発展に貢献



ターボ分子ポンプ



油圧ギヤポンプ

計測機器事業

66%

3,383億円

分析計測機器を提供し、様々な分野で、研究や技術開発、品質管理に貢献



液体クロマトグラフ質量分析システム

医用機器事業

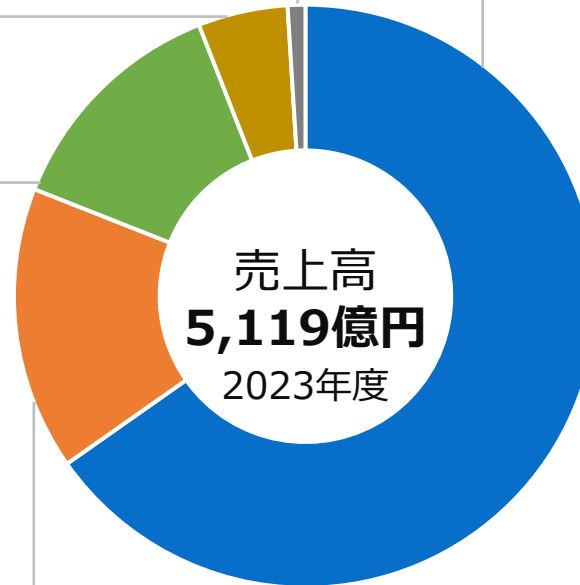
14%

723億円

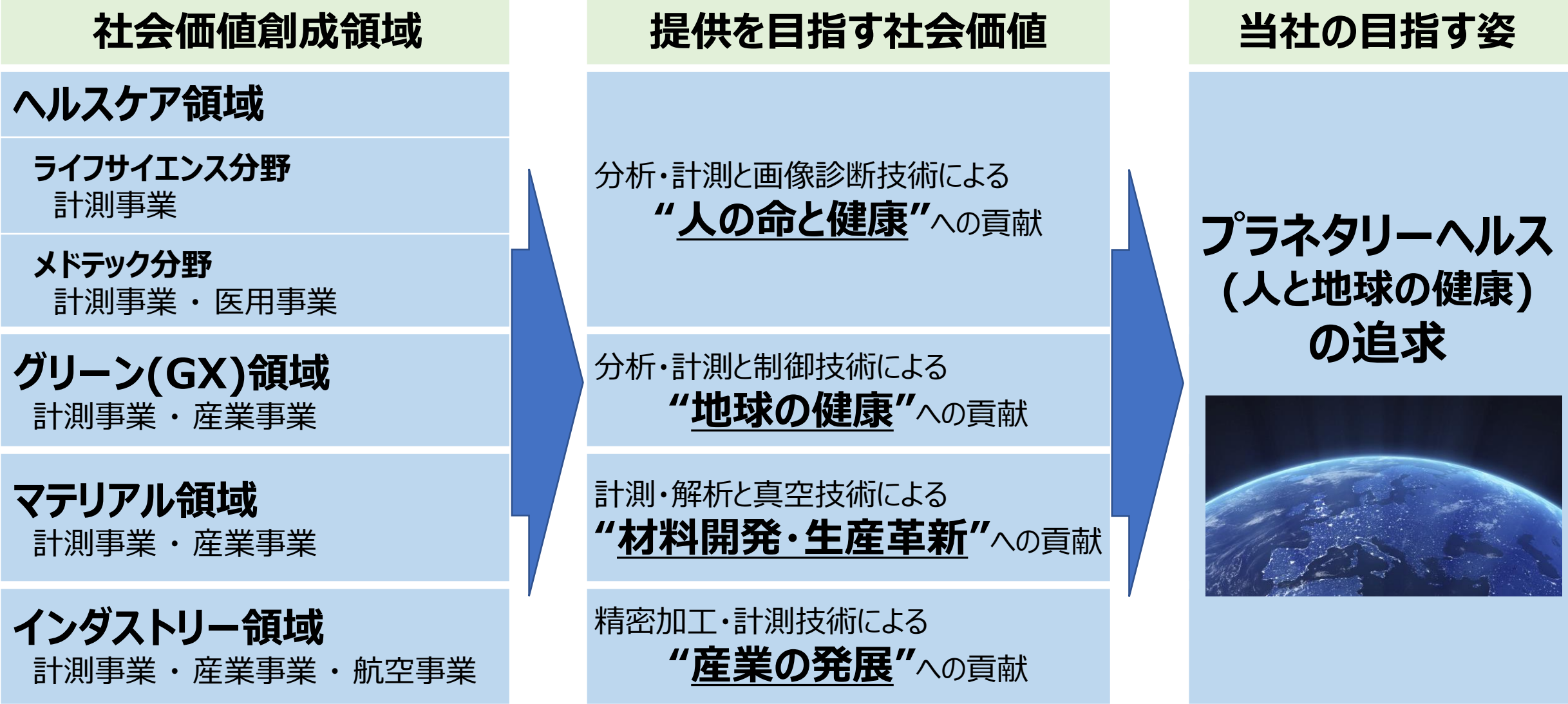
X線画像診断装置を提供し、人の健康の維持・向上に貢献



血管撮影システム



当社が提供を目指す社会価値と目指す姿



02 中期経営計画（2023年度～2025年度）

中期経営計画最終年度（2025年度）経営目標

財務目標

業績

売上高 営業利益 営業利益率
5,500億円 **800**億円 **14.5%**

資本効率

ROE **12.5%**以上 ROIC **11.0%**以上

株主還元

配当性向 **30.0%**以上を維持

非財務目標

気候変動対策

事業活動と製品使用に伴うCO₂排出量の削減

・自社排出量 : **1.0**万t-CO₂

・削減貢献量*1 : **1.2**万t-CO₂

(2025年度)

*1当社エコプロダクツPlus制度認定製品を利用したことによる顧客のCO₂削減量

女性活躍推進

女性管理職比率(連結) **12%** ⇒ **15%**
(2025年度) (2030年度)

ヘルスケア領域の事業イメージ

分析と画像診断技術による “人の命と健康”への貢献



高速液体クロマトグラフ質量分析システム
「LCMS-TQ RXシリーズ」



血管撮影システムTrinias



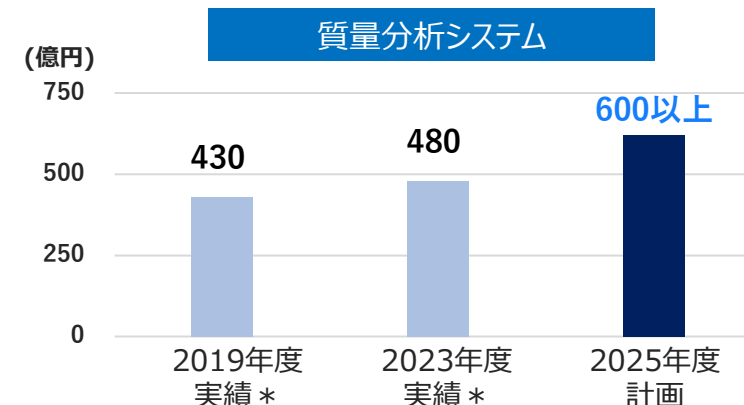
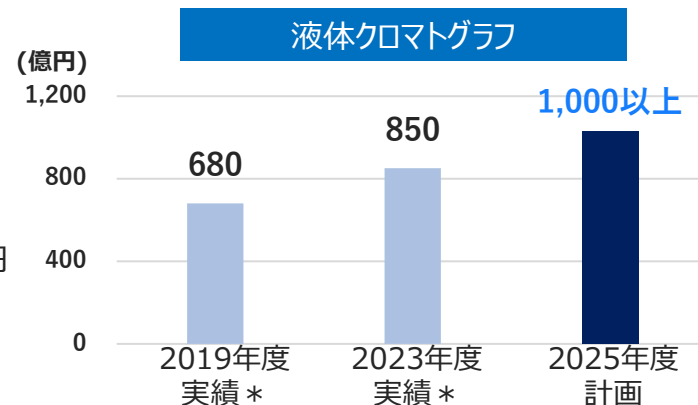
製薬市場向けトータルソリューション

自動化やAI技術を活用し、パートナーとの協力を通じて、顧客ニーズに沿ったトータルソリューションを提供
【製薬分野における分析ワークフロー】



業績計画

*FY2019、2022実績は
2025年度の想定為替を用
いて調整。想定為替は
1ドル120円、1ユーロ130円



北米業績拡大に向けた製薬市場への取り組み



製品の拡販

- ・顧客と共同開発を進め、顧客ニーズを反映し商品化
- ・売上や引合は好調に推移

製薬市場開拓



セミ分取超臨界流体クロマトグラフ
「Nexera UC Prep」

臨床市場開拓



高効率多流路LCMS
「Nexera QX」



営業力強化

- ・製薬向けの営業（販売員を2倍増）やマーケティング、サービスの強化
- ・臨床担当販売員の新規採用
- ・デジタルを活用したインサイドセールスを導入



開発力強化（北米R&Dセンター3施設設立）

- ・重要顧客と共同開発を進め、先端ニーズに対応した北米発の製品投入
- ・製薬や臨床分野で、液体クロマトグラフや質量分析システムのアプリケーション開発力を強化

西海岸開発センター

製薬＆バイオ系企業と協働し、メソッド開発

東海岸開発センター

大手製薬上流部門やアカデミアと協働し、メソッド開発



北米3拠点での
開発体制構築

北米R&Dセンター

- ・核酸や遺伝子治療薬領域に向けた製品・アプリケーション開発
- ・標準化・規制化への対応

画像診断のイメージングトランスフォーメーション(IMX)

- ・AI画像解析、動画対応
- ・診断能力向上、医療従事者の生産性向上、患者拘束時間を短縮



(例) AI画像解析による診断能力向上

計測点を修正するとQMスコアに即時反映されます。

液体検体用臨床検査（ダイアグノスティクス）

臨床診断

プラットフォームを構築し、システムの拡販とリカーリング事業を拡大

微生物検査
(臨床)

ワンストップで微生物検査関連製品を提供

細胞関連事業

商材の拡充・受託サービスの立ち上げ

骨粗しょう症、認知症、がん領域に臨床プラットフォームを構築

日常の健康管理



生活ログの
記録・管理

超早期検査



疾患マーカー分析
(質量分析)

診断



画像診断

治療（治療支援）



がん光免疫
療法

予後管理



投薬管理

*メドテック事業：健康長寿に向け、健康管理、検査、診断、治療、予後管理において、成分分析や画像解析技術等を用いたトータルソリューションを提供する事業

グリーン領域での事業イメージ

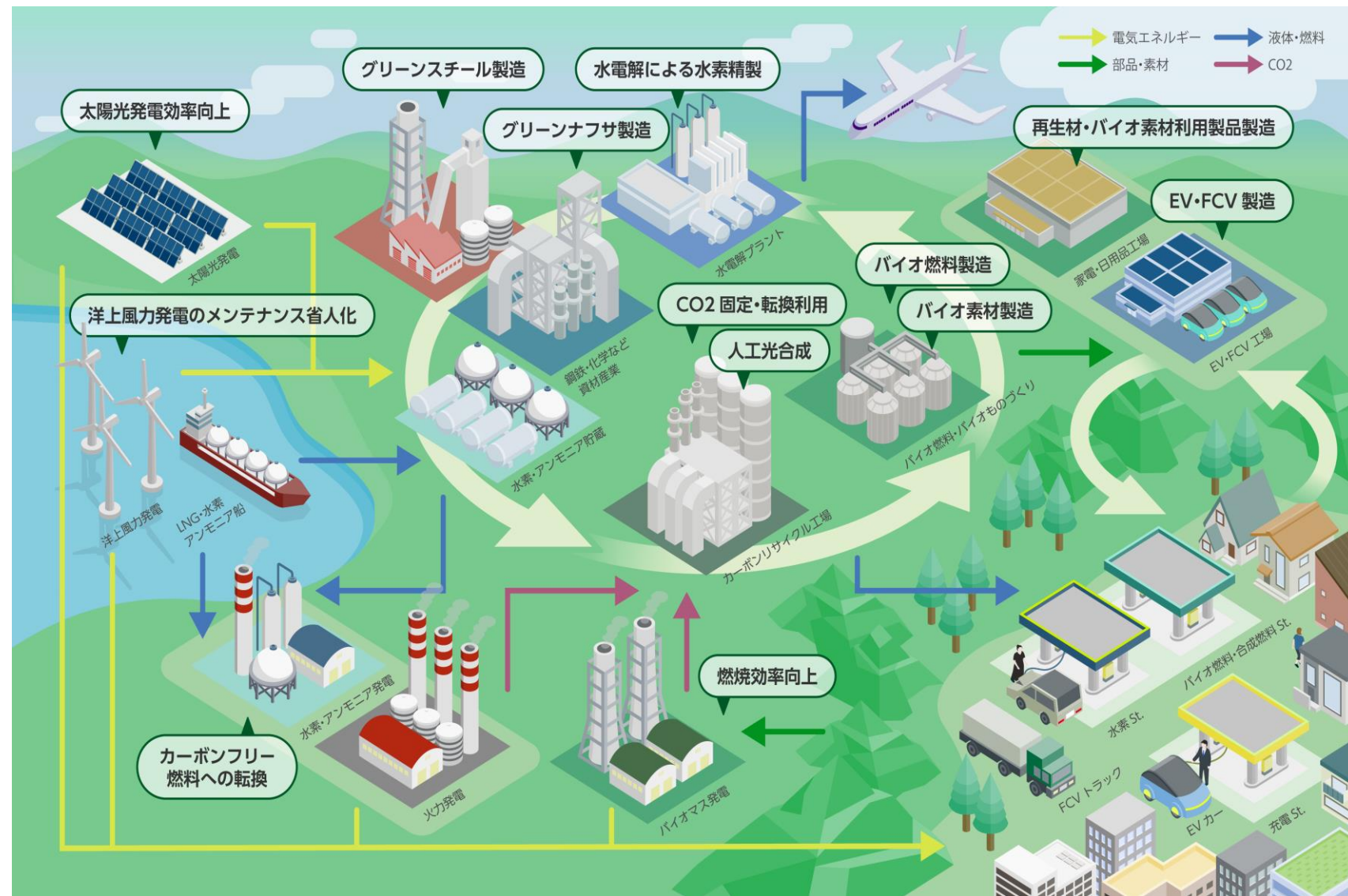
分析計測技術と産業機器による“地球の健康”への貢献



元素選択式
ガスクロマトグラフ
質量分析システム
「ELEM-SPOT」



温室効果ガス
アナライザー



GX4分野への貢献



バイオものづくり

- ・バイオ化学品
- ・バイオ燃料



質量分析システム



Autonomous Lab



新エネ・創エネ・蓄エネ

- ・水素/アンモニア
- ・再生可能エネルギー
- ・次世代電池



ガスクロマトグラフ



ポータブル
ガス分析計



環境・規制

- ・CO₂吸収コンクリート
- ・PFAS、マイクロプラスチック
- ・温室効果ガス



液体クロマトグラフ
質量分析システム



全有機体炭素計



マテリアル・ 次世代モビリティ

- ・新素材開発（軽量素材等）



X線検査装置



材料物性試験機

標準化や規制対応戦略の推進

Step1

・国内外規格認定機関との関係強化

国内：NEDOと標準化を推進。JIS、JASで実績をつくる
海外：EPA(米国環境保護庁)やISO

Step2

・GX関連市場で、当社の分析手法を
国際標準化することで競争優位性を確保

リカーリング事業の強化・拡大

リカーリング事業とは・・・機器本体の消耗品（試薬など）やサービス（保守点検や修理など）で継続的に収益を得る事業



DX・IoTの
活用

・リモートモニタリングやメンテナンスサービス



商品開発力
強化

・自社開発およびM & Aによる商材拡充



パートナーシップ
強化

・販売体制強化
・パートナーシップ強化による商材拡充

計測機器事業のリカーリング比率推移

2019年度

32%

2023年度

36%

2025年度(計画)

43%

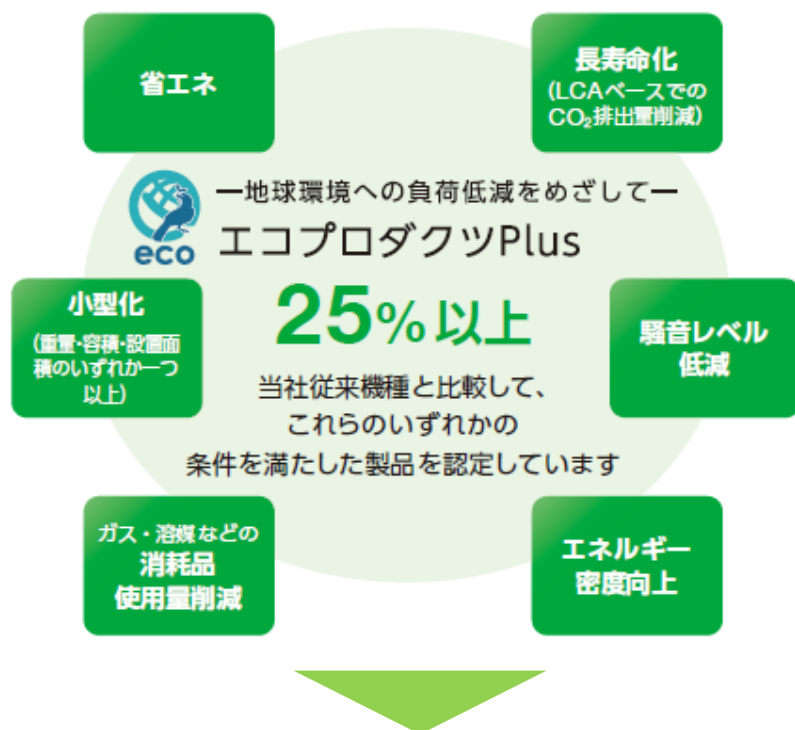
リカーリング比率向上のメリット

- ・収益性の向上
- ・長期的、安定的な収益の確保

03 ESGの取り組み

「すべての製品のエコ化」を推進

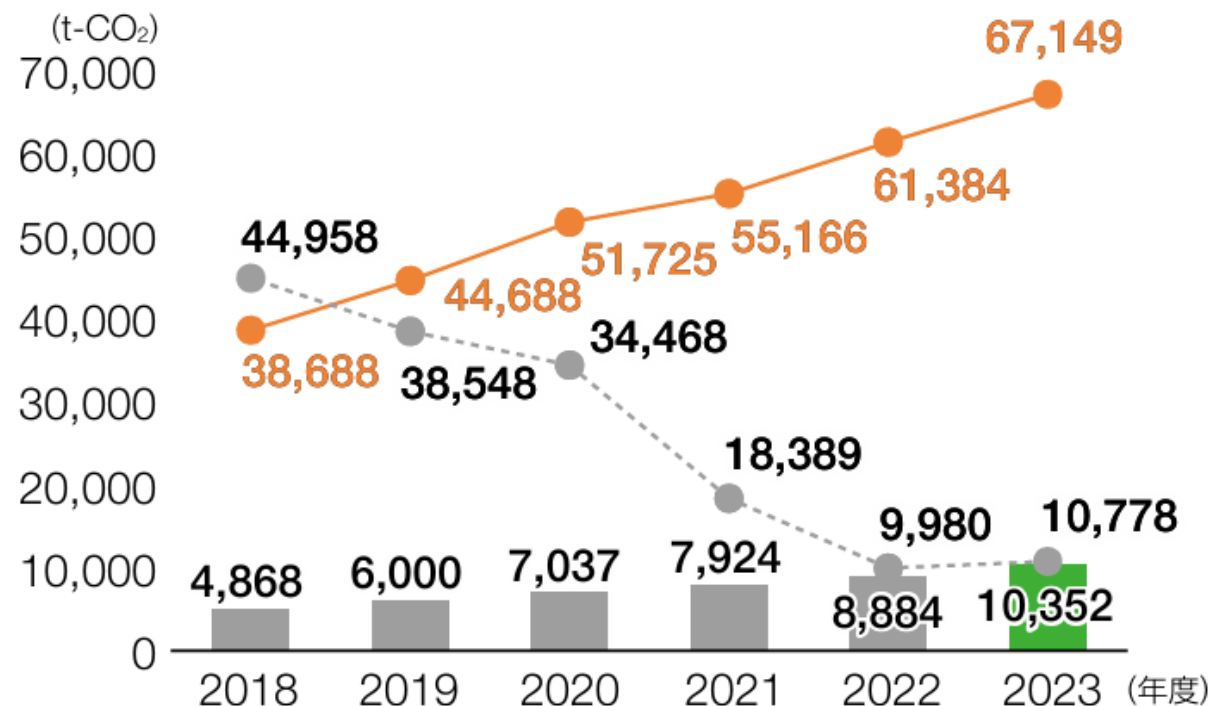
環境配慮認定製品エコプロダクツPlusの要件



2030年度までに製品売上高の**30%**を
環境配慮認定製品エコプロダクツPlusとする

島津グループCO₂排出量とCO₂削減貢献量

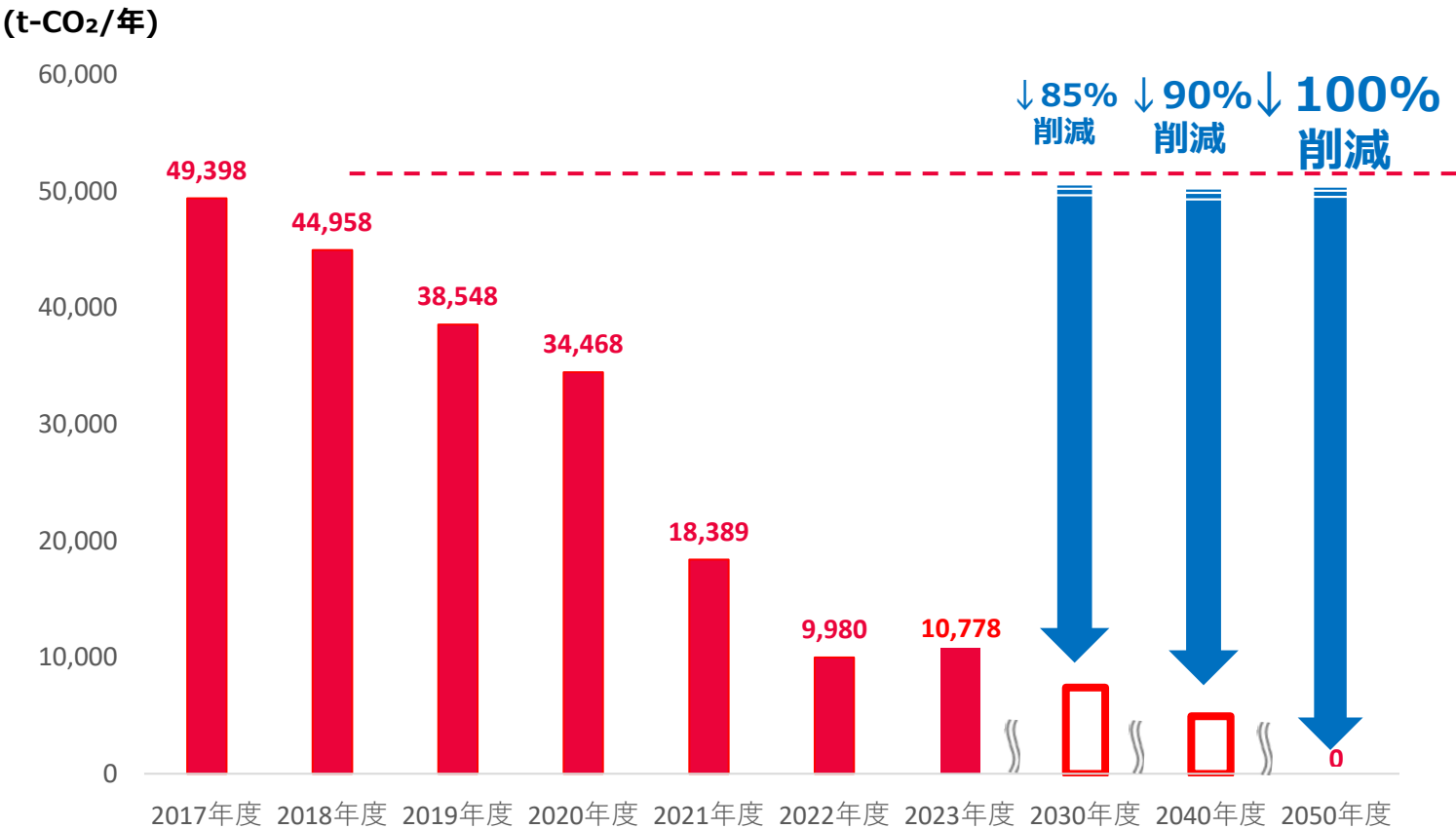
■ 年度内に新規に販売された製品の削減貢献量 — 市場累計量
— 島津グループエネルギー起因CO₂排出量



※CO₂削減貢献量：当社の製品の使用により、顧客のCO₂排出量を従来よりも削減させた量のこと。
計算式 CO₂削減貢献量＝従来製品のCO₂排出量(t/年)-新製品のCO₂排出量(t/年)で算出

事業における環境負荷低減「CO₂排出量の削減」

島津グループの事業活動によるCO₂排出量



2019年5月：TCFD宣言への賛同



2021年3月：RE100を宣言

RE100

CLIMATE GROUP



2022年2月：
「サプライヤーエンゲ
ージメントリーダー」に
選定



2022年10月：SBT認定を取得



ダイバーシティ経営の推進



ダイバーシティは 科学技術の源泉

島津製作所は、科学技術で社会に貢献し続けるために、多様な社員一人の意思と違いをポジティブに受け止め、その才能を最大限に活かします



女性リーダーの育成とキャリア支援

- ・管理職一步手前を対象としたShimadzu Women Next Career Design研修
- ・フレックス、テレワーク、時間単位年休や出産育児に関する幅広い支援制度など、女性が活躍できる環境を整備

女性管理職比率

2023年度 2030年度目標
11.1% → **15%**以上

女性育休取得率*

6年連続 **100%**

女性の育休からの復帰率*

3年連続 **100%**

男性育休取得比率*

2020年度 2023年度
22.7% → **65.5%**

*単体データ

コーポレートガバナンス

- 多様性のある構成
- 経営の透明性と客観性を確保

取締役会の構成



指名・報酬委員会



- 純投資目的以外で保有する株式(2024年3月31日現在)
連結総資産の2.1%
連結純資産の2.9%

政策保有株式推移

銘柄数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
非上場株式	30	30	30	30	28
非上場株式 以外の株式	36	30	24	22	22

貸借対照表計上額

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
非上場株式	525	519	612	1,530	1,381
非上場株式 以外の株式	10,418	11,907	11,405	10,426	13,054

04 株式情報

株価推移

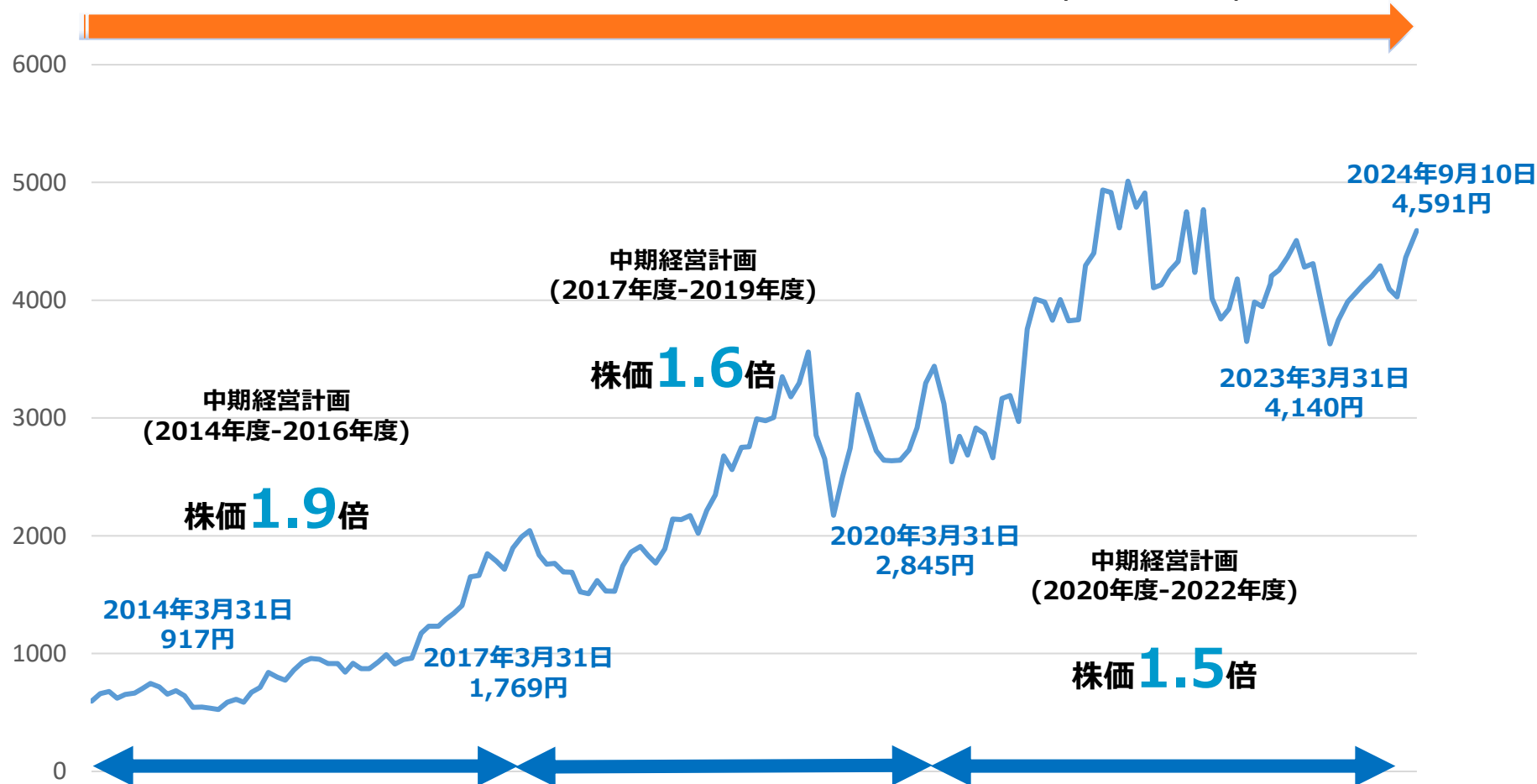
時価総額：1兆3,590億円（2024年9月10日時点）

【島津株の特長】

景気に左右されない
抜群の安定性

積極的投資により
着実に成長

10年間で株価は約**5**倍に成長



株主還元



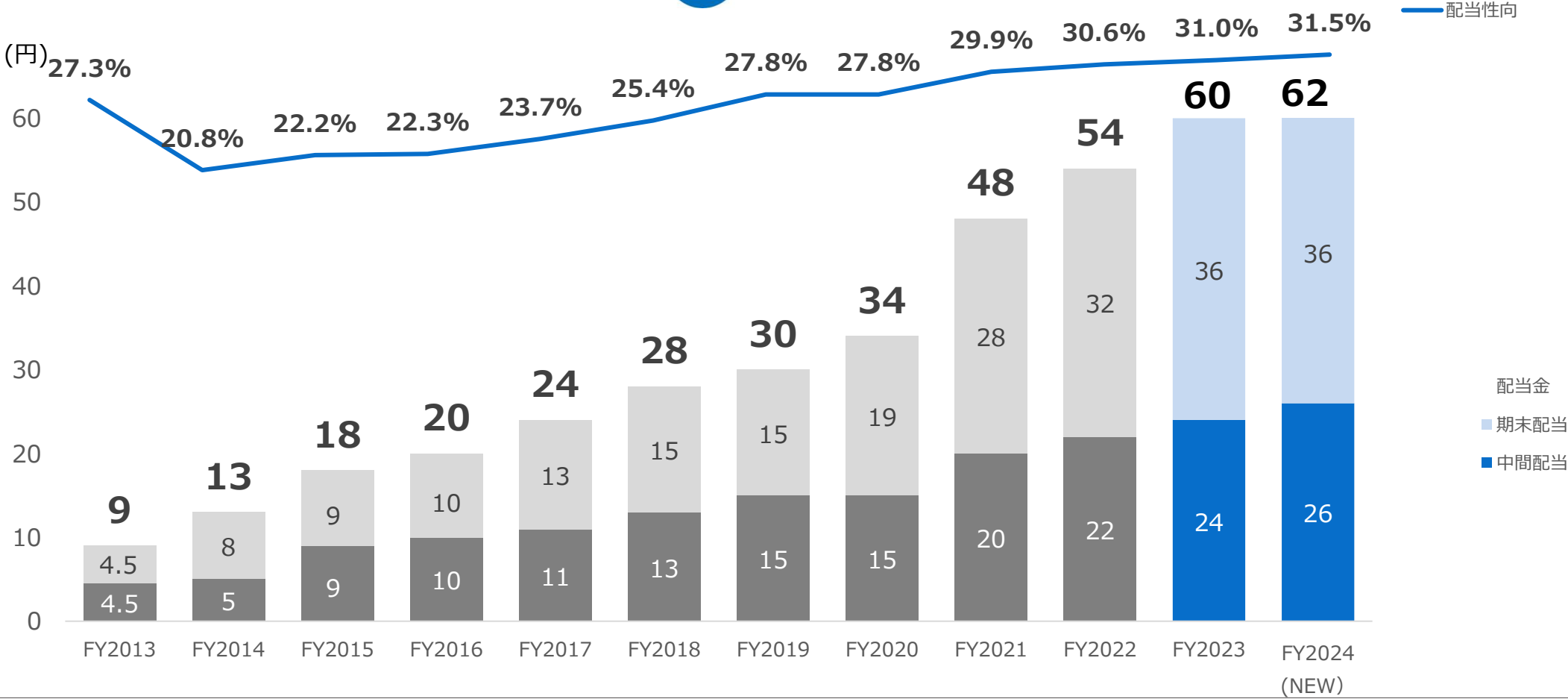
配当金

11期連続増配



配当性向

2024年度は31.5%を予定



まとめ

強み

- ・オンリーワン技術、No.1ソリューションを生み出す技術開発力

事業

- ・ヘルスケア、グリーンイノベーションなどの成長分野に注力

新中計

- 2025年度目標値
・売上高5,500億円 営業利益800億円 営業利益率14.5%

株主還元

- ・配当性向31.5%。11期連続増配を予定

ESG

- ・2050年CO₂排出量実質ゼロ
- ・ダイバーシティ推進により、科学技術の創造と社会課題の解決に取り組む



150 Years of Innovation

150
YEARS
ANNIVERSARY



SHIMADZU

Excellence in Science

本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所

コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ

電話：075-823-1673

E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp